

## ふるさと寺尾

7月号

令和8年 6月 30日発行



## 寺尾の教育目標 【わくわく ぼかぼか きらきら】

- 【わくわく】 「よく遊び、自ら学ぶ」子を育てます。  
【ぼかぼか】 心、体、命を大切にし、自他ともに尊重する子を育てます。  
【きらきら】 人・もの・ことと豊かにかかわり、地域や学校を大切にすることを育てます。



おすすめの絵本



校長 中山 正之

梅雨らしいお天気が続いています。6年生の日光修学旅行や3年生の日生劇場鑑賞などは合間の晴れの日に行うことができましたが、水泳学習はやはり雨の影響を受けてしまいます。楽しみにしている子も多く、可能な限り実施していますが、条件がそろわないとできなくなってしまいます。近年は雨に加え、暑さも考慮しなくてはなりません。難しい環境になっていると感じます。それだけに、入れる時には水泳を存分に楽しんでほしいと思います。

さて、梅雨時は子ども達が校内で過ごす時間が増えます。学校図書館に足を運ぶ機会も多くなります。良い機会ですので、近く図書館に来る予定の、興味深い絵本をご紹介します。題名は『クジラがしんだら』。新聞や雑誌でよく取り上げられているので、ご存知の方もいるかもしれません。この絵本は「死」という一見重く感じられるテーマを入口にしながら、命の循環やつながりの豊かさを、静かに、力強く伝えてくれます。

物語は、一頭のクジラがその生を終え、深い海の底へと沈んでいくところから始まります。やがてそのからだには、様々な生き物が集まってきます。とりわけ印象的なのが「鯨骨生物群集」と呼ばれる存在です。これは、クジラの骨を栄養源として集まる特別な生き物たちの集まりで、普段は暗く静かな深海に、新しい命の世界を生み出します。死んだクジラが深海の生物達の命を支える期間は、長ければ100年にも及ぶそうです。この絵本ではクジラの命が別の多くの命を支え、未来へとつながっていくという、壮大で繊細な自然の仕組みが、子ども達にも理解できる形で描かれています。

子ども達はおそらく、この絵本の題名から「そのあとどうなるの?」という問いを抱きます。本書はそれに対し、「命はつながり続ける」というメッセージを、説明ではなく心に響く物語として届けてくれます。もし親子で一緒に読めば、感じたことを言葉に合う時間が持てるのではないのでしょうか。日常生活では、命について深く考える機会は限られがちです。しかし、ご家族が揃う夏休みなら、そうした機会も持てると思います。本書を通して、自然の営みの不思議や命の尊さに触れていただけたらと思います。きっと、あたたかな余韻が心に残る一冊になるはずです。校長室にも置いてありますので、ご興味のある方は、お声がけください。

7月になると暑さが本格的になり、「酷暑」と呼ばれる時期を迎えます。雨も多く不安定な気候が続きますが、学校では引き続き子ども達の健康と安全にしっかり配慮していきたいと思います。夏休みまであと少しです。